

わかりやすく、楽しく伝える沖縄県広報誌

美ら島 沖縄

ちゅらしまおきなわ

9

2025
vol.600
無料

波も、時も、ゆつくりと



沖縄の歴史と文化

沖縄のこころ「チムグクル」の継承・発信に向けた取組

11月1日は 琉球歴史文化の日



戦後80周年平和祈念公演
「アジア・太平洋地域の芸能」
■場所…国立劇場おきなわ 大劇場
■日時…9月28日(日) 14時開演
 平和への祈りを込め沖縄戦を題材にした新作能「沖縄残月記」と、文化の交流と相互理解を深めるため令和6年11月に県と友好都市協定を締結した韓国・濟州道の芸能を上演します。

県は、戦後80年の節目に、平和を希求する「沖縄のこころ」を県内外に発信するとともに、「ユイマール」や「チムグクル」といった沖縄の精神文化の基となる琉球歴史文化の理解を深める取組を「琉球歴史文化の日(11月1日)」の関連事業として行います。
 年間を通して、教育・文化機関と連携し、さまざまな取り組みを予定しています。その中から一部を紹介します。

その他の取組

先に記載した取組以外にも、10月から11月にかけて、戦中に途絶え戦後復興を果たした地域に根付く伝統芸能などにスポットを当てたTV特番の放送や、戦後の沖縄の歴史を振り返りつつ、当時を彷彿させるような沖縄のお笑いを見ることが出来る「お笑いで見える沖縄戦後史『笑いまショーおきなわ』」を開催します。

また、東アジア地域の緊張緩和と信頼醸成に寄与するとともに、あらかじめ未来の世界を祝福し、平和と安定を



博物館特別展「戦災文化財」
■場所…県立博物館・美術館
■期間…9月30日(火)～11月30日(日)
 沖縄戦で被害を受けた文化財を通じて戦争のいたまじさを知り、平和の重要性を考えるとともに、先人が築いた沖縄独自の文化財を取り戻してきた軌跡を紹介する展覧会を開催します。



各取組を紹介するホームページは、この二次元コードから

祈願するため、東アジア地域の音楽や芸能を披露する「だれもしらない芸人会」戦後80年 命の音 祈りの舞」を開催します。

沖縄戦後80年・
ベトナム戦争終結50年祈念
「ベトナム、記憶の風景」
11月22日(土)～令和8年1月18日(日)
沖縄県立博物館・美術館



ルオン・スアンニ
《読書する若い娘》



問い合わせ 文化振興課 電話：098-866-2768



7月
6 シンポジウム「みんなで継承しよう。沖縄戦の記憶
沖縄のこころ ～8館と一緒に考える～」を開催

県内8つの平和関連施設の館長や学芸員などが集い、平和を考えるシンポジウムを開催しました。

各施設の活動紹介のほか、パネルディスカッションでは、沖縄戦の実相・教訓の継承、平和発信の重要性など、活発な議論が交わされました。

玉城知事は、沖縄から平和の心が



意見交換を行う平和関連施設の館長など

広がっていくことに期待し、平和を希求する「沖縄のこころ」をより一層強く発信しました。

7月
6 第5回
チャレンジング・パーソン空手

知的障がいのある方々を対象とした空手大会が沖縄空手会館で開催されました。

沖縄の先人達によって創造され、継承されてきた空手は、厳しい鍛錬を通して身体を鍛え、心を磨き礼節を重んじる「平和の武」として世界中に広く普及しており、性別、年齢、



活気あふれる大会の様子

国籍、障がいの有無を超えた文化として親しまれています。

玉城知事は開成式で、出場者の皆さまを激励しました。選手達は日頃の稽古の成果を存分に発揮され、空手を通じた交流が深められた大会となりました。

7月
9 内閣府予算増額を求める
要請

池田副知事は内閣府を訪れ、令和8年度沖縄振興一括交付金の増額などを求めました。

近年の人件費や物価高の影響により、県・市町村における事業の進捗遅れや規模縮小など、県民生活への影響が生じていることを説明し、予算増額の必要性を訴えました。



内閣府担当者に要請書を
手交

内閣府一括計上予算に係る社会資本整備関連についても、空港・港湾の整備や河川などの防災・減災のための整備を進めていく必要があることから、所要額の確保を求めました。

7月
22 ダバオ慰霊祭参列

大城副知事は、フィリピンで行われた、ダバオ慰霊祭に参列しました。ダバオでは、戦前に移民として移り住んだ県人のうち、1万2千人余りが太平洋戦争で尊い命を落としました。副知事は、玉城知事の代読で追悼の言葉を捧げ、戦没者のみ霊を慰めました。



追悼の言葉を
捧げる大城副
知事

慰霊祭のほか、ダバオ市副市長や在ダバオ日本総領事館、フィリピン日系人会への表敬訪問や現地の方々との交流会を通して、絆をより一層深める機会となりました。

02 戦後80周年平和祈念事業

沖縄の歴史と文化

03 県政フラッシュ

04 特集：高齢者フレンドリーな長寿社会に
むけて

06 戦後80年 記憶と未来のタイムマシン
[第5回 健康編]

08 沖縄県の地域外交について
沖縄県の地域外交の取組について
読者の声

09 県の動き1

下水道の大切さ、一緒に考えてみませんか？

県の動き2

沖縄特区・地域税制に係る各種制度の紹介について

10 Fun Fan Local [vol.5 南城市]
アンケート&プレゼント

11 県の動き3

9月は「健康増進普及月間」です

12 情報ひろば

14 県の動き4

おきなわ＃7119電話相談窓口について

広報課からのお知らせ

今月の表紙

「波も、時も、ゆっくりと」

静けさ漂う海の中をゆったりと泳ぐウミガメの姿に、沖縄の穏やかな時間を感じます。こんな日常がずっと続きますように。
(撮影：上出 俊作)



人口・世帯の動き (2025年7月1日現在)



総人口

146万5,247人

※前月比64人増加



世帯数

65万7,962世帯

※前月比540世帯増加

沖縄県庁広報課

美ら島沖縄



公式LINE

@okinawa-
government



公式X

@okinawa_pref



Instagram

@churashima-
okinawa_official

「美ら島沖縄」電子Book版とバックナンバーは、県ホームページでご覧いただけます。



【美ら島沖縄の設置場所】

美ら島沖縄

県内コンビニ、モノレール各駅等で無料配布しています。また、公共機関や銀行、病院など多くの方々が利用する施設でもご覧いただけます。新規設置施設も受け付けていますので、関心のある方は広報課までご連絡ください。なお、全世帯向けの戸別配布は致しかねます。ご了承ください。

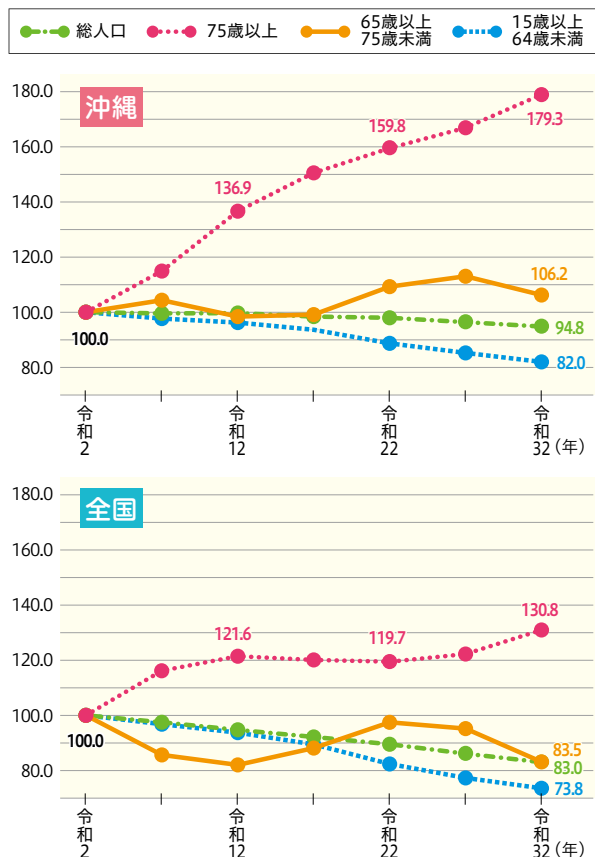


高齢者フレンドリーな 長寿社会にむけて

一 沖縄県の高齢化の現状

沖縄県の65歳以上の高齢者人口は、35・3万人（令和6年現在）で、高齢化率は23・8％となっています。2050年（令和32年）には46・8万人、高齢化率は33・6％となり、県民の3人に1人が高齢者となることが見込まれています。また、沖縄県は75歳以上人口が全国一高い伸び率で増加する一方で、働き盛り世代

■年齢区分別人口の推計（令和2年を100としたとき）

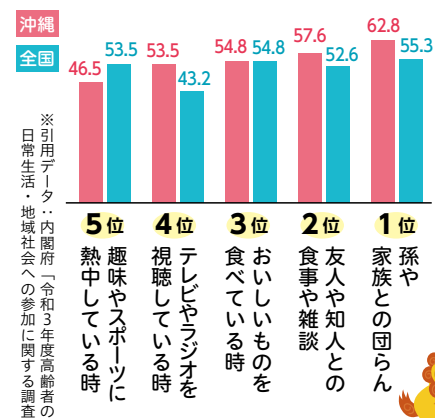


（15歳～64歳）は約20％減少するこ
とが見込まれ、今後、社会は大きく
変化していきます。

急速な高齢化に伴って認知症や軽
度認知障害（MCI）も増加しており、
その合計人数は全国で約1,000万
人（令和4年時点）、高齢者の3・6
人に1人が認知症またはその予備軍
とされています。

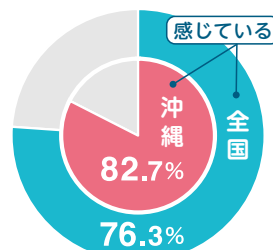
一 高齢者が望む暮らし

令和6年度に実施した「高齢者の
生活状況調査」では、生きがいを感じ
ている高齢者の割合は全国平均よ
り高く、「孫や家族との団らん」、「友
人や知人との食事や雑談」など人との
交流に生きがいを感じていました。
また、身体が弱ってきた際は「今の
住居で居宅介護サービスを受けなが
ら暮らし続ける」ことを希望する割
合が高いなど、人との交流が高齢者
の生きがいと強く結びつき、住み慣
れた地域や自宅で可能な限り自立し
た生活を送りたいと望んでいました。
加齢に伴う心身の機能の低下によ
り、これまで楽しんできた買い物や
外食、趣味など外出の機会や望む暮
らしを少しずつあきらめ、徐々に社
会とのつながりが希薄となる高齢者
も多くいる一方で、誰かの役に立ち
たい、誰かを支えたいと社会貢献や
就労意欲のある高齢者も少なくあり
ません。



Q 生きがいを感
じる時は？
（複数回答）

沖縄県は全国平均より
「生きがいを十分感じている」
多少感じている」と答えた
割合が高めでした。



※引用データ：内閣府「令和5年度
高齢者の住宅と生活環境に関する調査」

沖縄では「人との交流」が、高齢者の
生きがいと強く結びついているんだね～



高齢者フレンドリー社会

高齢者限定のeスポーツ大会や認知症の方がホールスタッフとして働くレストラン、終末期の家族旅行など、身体機能の低下や認知症があっても使いやすい多様なサービスや、高齢者が培ってきた豊かな社会経験やスキルを活かした就労や社会参加の場など、いろいろな選択肢がある豊かな社会が広がればいいと思いませんか？

県ではすべての高齢者にとって使いやすいサービス、参加しやすい活動の場など多様な選択肢があり、心身の機能が低下しても望む生活ができる限り続けることができる「高齢者フレンドリー社会」づくりを推進しています。今ある制度や分野の枠

を超え、市町村、地域包括支援センター、民間事業者、地域団体などが共に高齢者の生活課題やニーズなどの理解を深め、連携・協働するための広域的なプラットフォーム（ツドレバ）を構築し、高齢者が使いやすいサービスや活動、就労の場の創出などの伴走支援を進めています。参加事業者募集の詳細などは「ツドレバ」の専用ホームページを参照ください。

今の意識が変われば、未来の景色が変わる

高齢者がいきいきと生きがい・やりがいを感じ希望を持って暮らせる地域づくりは、すべての人にも優しいまちへとつながっていきます。

高齢化に伴い認知症になる方も増えていきます。認知症は誰もがなりうる病気であり、認知症になってからも一人一人できること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とながりがながら、希望を持って暮らし続けることができる「新しい認知症観」という考えが示されています。

県では「今の意識が変われば、未来の景色が変わる」をキーワードに、「高齢者フレンドリー社会」、「認知症バリアフリー社会」の構築に取り組んでいます。誰もがお互いを尊重し共に支えあう、豊かな地域づくりのために、この機会にぜひイベントに参加してみませんか。



イベント情報

9月は認知症月間です

みんなの認知症

認知症の予防・発見・対応・支援の場
みんなが認知症をいっしょに支えあおう！
（いっしょに支えあおう！）

2025年 9月15日 月・祝
13:30～16:00 定価 300円

会場 西原町民交流センター
（西原町民交流センター）

講師 認知症の予防・発見・対応・支援の場
みんなが認知症をいっしょに支えあおう！
（いっしょに支えあおう！）

参加費 無料

お申し込みはこちら
098-894-2152

YouTube
098-894-2152

認知症の予防・発見・対応・支援の場
みんなが認知症をいっしょに支えあおう！
（いっしょに支えあおう！）

認知症の予防・発見・対応・支援の場
みんなが認知症をいっしょに支えあおう！
（いっしょに支えあおう！）

参加申込

9月12日（金）15時まで



9月21日は

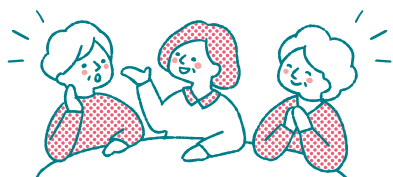
「認知症の日」

世界アルツハイマーデー（令和7年度版）

あなたの地域で
認知症とともに
いきいきと暮らす

写真：内田一孝氏の著作が、認知症とともに生きるとは
（本人グループ協議と義人等との共同制作）

厚生労働省
認知症対策推進部



関連
サイト



高齢者フレンドリー社会をつなげるプラットフォーム

問い合わせ

地域包括ケア推進課

電話：098-894-2152



タイムマシーン



第5回 健康編

タマ

ハイウ

イリオモテヤマネコ。
特殊な機器を取り
付けると、なんでも
タイムマシンに変え
られる。



小学4年生。
平和主義者。
バイン好き。

★健康維持には日々の食事・運動・睡眠が大切。みんなで健康意識を高めよう！



「敬老の日」

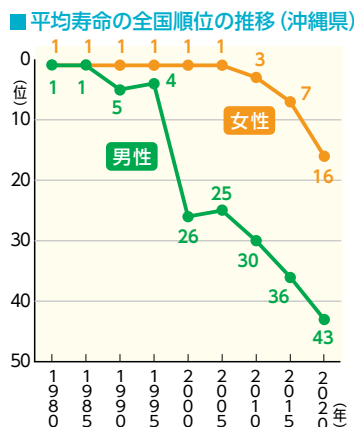
9月15日は敬老の日。家族や親戚でおいやおばあの長寿を祝い、さらなる長生きを願いますが、健康は日々の生活習慣の積み重ねの上に成り立つもの。おじやおばあだけでなく、働き世代や子どもたちも、健康について考える日にしたいですね。



平均寿命ランキングでトップを占め、「長寿の島」として知られていた沖縄が、その順位を徐々に落としてきていることはニュースでも度々報じられています。「長寿県・沖縄」を取り戻すために、県ではさまざまな取り組みを行っています。

なぜ沖縄は長寿でなくなったの？

平均寿命※の統計がとられるようになった1975年から沖縄は男女とも全国でトップクラスの長寿県でした。ところが、男性は2000年には26位まで一気に順位を落とし、全国的に衝撃が走りまわりました。一方、女性性は2005年まで1位でしたが、2010年から徐々に順位を落とし、2020年には男性が43位、女性が16位という結果になっています。



順位を落とした理由は、「長寿の島」として知られていた沖縄の伝統的な食事から、栄養バランスの偏った食事に変わったこと、身体活動が減少したこと、そして現代社会にはつきもののストレスの増加など、特に20歳から64歳の働き盛りの世代では、

生活習慣病が増加していることが挙げられています。

※平均寿命とは、ある年に生まれた人が平均して何歳まで生きられるかの予測値を指します。一方、「健康寿命」は健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことです。健康寿命については11ページでも詳しく紹介しています。

「健康おきなわ21」はどんな計画？

県の健康増進計画である「健康おきなわ21」は、すべての県民が健康長寿でいられること、そして生きがいにあふれた豊かな人生を送ることを目指し、健康づくり施策を推進するためのものです。

沖縄が平均寿命の順位を落とす中で、特に問題視されているのが働き盛り世代の死亡率が高く、男女とも全国ワースト3に入っていることです。主な死因では、生活習慣病である悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病で約5割を占めています。

そこで、「健康おきなわ21」では、「肥満」の改善や、企業とともに労働者の健康増進を図る「健康経営」の推進、そして市町村などとの連携強化を重点的に取り組んでいます。

そのほか、県民が具体的に実行に移せるよう「新・チャージングウおきなわ9か条」を策定し、日々の体重・血圧・体温測定や、朝食をきちんととること、適度な運動や健康診断の受診の推奨などを行っています。

健康おきなわ21(第3次)概要版



詳しく見てみてニャー!



ラジオ体操を習慣にする企業があるの？

始業時間になると、全社員が立ち上がり、ラジオ体操をする企業があります。これは「健康経営」の取り組みの一例で、ウチナーグチ版のラジオ体操を流すことで楽しみなながらできる工夫なども行われています。

そのほかにも、血圧計の設置や休憩時間のおやつの見直し、朝食を食べることの徹底など、各企業の仕事内容に合わせ、継続できる内容を実施し、会社全体で健康を目指す取り組みが行われています。

うちなあぐちラジオ体操完全版
(キャンペーンコード/ゆいワックス)

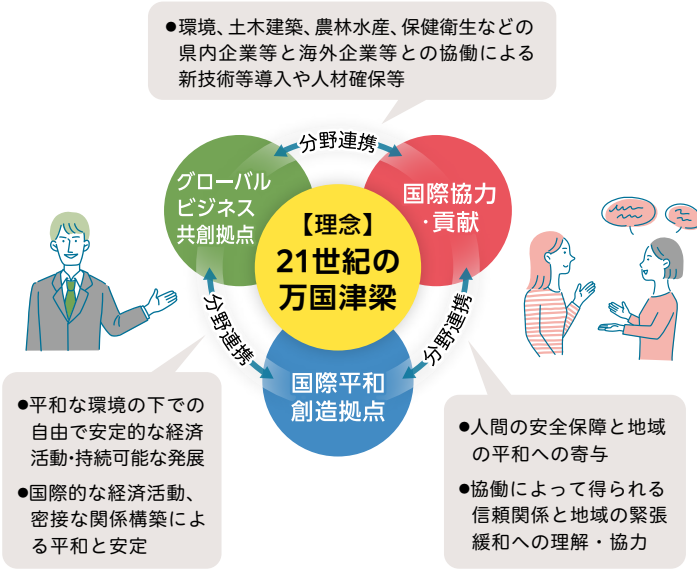




沖縄県の地域外交の取組について

「沖縄県地域外交基本方針」の策定

令和6年3月に策定した「沖縄県地域外交基本方針」では『新時代を切り開き、世界の平和構築や相互発展、国際的課題の解決に貢献する「21世紀の万国津梁」を実現する』を理念とし、県の地域外交の目指す姿として、3つの分野を掲げています。



① アジア・太平洋地域の平和構築に貢献する**国際平和創造拠点**

② 多様な国際ネットワークが結びつく**グローバルビジネス共創拠点**

③ 世界の島しょ地域等とともに持続可能な発展を図る**国際協力・貢献拠点**

第1回地域外交に関するアドバイザリーボード

地域外交施策を推進するにあたり、県の地域外交施策の参考とすることを目的とするアドバイザリーボードを設置し、会議を開催しました。

(令和7年1月)
各委員からは、

「県は、国際平和創造の拠点、東アジアにおける平和の触媒としての役割を担う可能性がある。」

「沖縄は、ASEANとの共創パートナーシップを深めることで、地域の安定と繁栄に大きく貢献できる可能性を秘めている。」



アドバイザリーボードの会議の様子

「県は、地域外交を新たな外交戦略として位置づけ、積極的に推進することで、国際社会における存在感を高め、県民の暮らしが豊かになる可能性がある。」

などの意見をいただきました。県としては委員からの意見を踏まえながら地域外交を推進していきます。

読者の声（美ら島沖縄7月号）

特集：沖縄県子ども・若者計画

●PTA活動や子どもの貧困対策の支援員をしていたこともあり、「未来の沖縄を担う子どもたちが家庭の環境に左右されてしまう現状を整えるには…」と日々考えさせられます。

記憶と未来のタイムマシン

【遊園地・テーマパーク編】

●生まれる前の知らなかった施設や、懐かしいアトラクション記事に感動しました。

Fun Fan Local [沖縄市]

●沖縄県内にまだ銭湯（沖縄市・中乃湯）が残っていたことに感動しました！

県の動き4：海や川での水難事故防止について

●毎年起こる水難事故は、ニュースで目にして身近なことだと思いつつも、どこか他人事と考えている自分がいまです。ちよつとした知識でも持つておくべきだと思っています。

情報ひろば

●関心はあるけど、詳しいことは知らないイベントや募集が目でわかるので参考にさせてもらっています。知り合いと情報を共有したり。

取り戻そう！健康長寿おきなわ

●県内の死亡順位の高いがん（2023年）のデータに驚きました。男性の1位は肺がん、女性の1位が大腸がんを知ることができました。がん検診を受診することの大切さを知りました。

「美ら島沖縄」のバックナンバーは、県のホームページをご覧ください。



美ら島沖縄

「美ら島沖縄」のアンケートに回答いただいた内容から一部抜粋して掲載しています。アンケートについては、10ページをご覧ください。

